

登録コード	L2020100	開講年度	2026				
担当教員	野津 寛			副担当			
授業科目	比較文学概論						
英文授業名	Comparative Literature : Introduction						
授業タイトル	西洋古典文学概論						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2 時限
講義室	人文第 3 講義室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2 0 2 2 Lカリ, 2 0 2 1 Lカリ, 2 0 2 0 Lカリ						
	【2022年度以前加わった対象】過去の英知の批判的継承のうえに 立って創造的な未来を切り拓く開拓力			西洋の文学の歴史について広いパースペクティブから学び、研 究する基礎を身につけることができる。			
	2 0 2 6 Lカリ, 2 0 2 5 Lカリ, 2 0 2 4 Lカリ, 2 0 2 3 Lカリ						
	【2023年度以降加わった対象】人文学部人文学科の学士（文学） の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			西洋の文学の歴史について広いパースペクティブから学び、研 究する基礎を身につけることができる。			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	古代ギリシアと古代ローマから始め、ヨーロッパの中世を経て、近代に至る様々な時代と地域において書かれた詩（叙事詩、教訓詩、叙情詩、悲劇、喜劇、等）の観察を通じて、西洋文学における詩（主に叙事詩と悲劇）の伝統のエッセンスを理解できるようにしたい。						
授業計画	古代ギリシア・ローマからヨーロッパ中世・近代に至る時代に書かれた様々な詩歌のジャンルとそれらの内容と形式、およびそれらの影響について、できるだけ具体的に解説する。 第 1 回 ガイダンス。授業と参考書に関する説明。 第 2 回 予備的考察。 第 3 回 古代ギリシアに発する西洋文学の伝統について。 第 4 回 ホメロスの英雄叙事詩（ 1 ）。 第 5 回 ホメロスの英雄叙事詩（ 2 ）。 第 6 回 歌から詩へ、詩から散文へ。 第 7 回 様々な詩歌のジャンルと形式。 第 8 回 演劇詩：悲劇（ 1 ）。 第 9 回 演劇詩：悲劇（ 2 ）。 第 1 0 回 参考書と授業の内容に関するディスカッション。 第 1 1 回 ラテン語とヨーロッパ（ 1 ）。 第 1 2 回 ラテン語とヨーロッパ（ 2 ）。 第 1 3 回 ウェルギリウス『アエネーイス』。 第 1 4 回 オイディウス『変身物語』。 第 1 5 回 参考書と授業の内容に関するディスカッション（ 2 ）。授業アンケートを行う。						
成績評価の方法	講義と参考書（英語と日本語）の内容に関する理解度を問うレポート（ 5 0 % ）と、授業への参加態度（ 5 0 % ）により総合的に評価する。						
成績評価の基準	授業への出席が基準を満たしておりレポートにおいて授業内容と参考書に対する理解がある程度まで示されていれば『その水準にある』と、授業への出席が基準を満たしておりレポートにおいて授業内容と参考書に対する理解が十分に示されていれば『やや上にある』と、授業への出席が基準を満たしておりレポートにおいて授業内容と参考書に対する優れた理解が示されていれば『かなり上にある』と、授業への出席が基準を満たしておりレポートにおいて授業内容と参考書に対する優れた理解が示されているのみならず、独自の優れた見解が明確に述べられていれば『卓越している』と、評価する。						
事前事後学習の内容	教場で指示する。						
履修上の注意	講義の性質上どうしてもギリシア語とラテン語の基礎的な知識を前提に授業を進めることになる。講義の内容を十分に理解し、具体的な知識を応用するために、受講者はすでにギリシア語とラテン語を学習しているか、または、以下のギリシア語とラテン語の授業のいずれかを履修することが望ましい。教場で紹介する参考書は受講者が自分自身で入手すること。 ・ 西洋古典語の世界ゼミ（ラテン語・全学教育機構・後期） ・ 古典語Ⅰ 及びⅡ（ギリシア語・人文学部・前期及び後期・各年開講） ・ 古典語ⅢⅠ 及びⅣ（ラテン語・人文学部・前期及び後期・各年開講） 期末レポートを書いていただく際に相当量の英文資料を読んでもらう。英語の読解力に自信のない受講生は、必ずしも成果があげられないかもしれないので、要注意。						
質問、相談への対応	オフィスアワーは月曜日の昼休み。研究室訪問に際しては必ず事前にメールで連絡すること。電子メール：notsu@shinshu-u.ac.jp。基本的には Zoom で対応する予定。						

教科書	使用しない。参考書を参照。
参考書	葛西康德 他（編），『古典の挑戦』，知泉書館 フランソワ・アルトーグ（著），葛西 康德・松本 英実（翻訳）『オデュッセウスの記憶：古代ギリシアの境界をめぐる物語』 東海大学出版部 L. D. Reynolds （著），Nigel Guy Wilson （著），Scribes and Scholars: A Guide to the Transmission of Greek and Latin Literature. その他の参考書については、教場で指示する。ギリシア語とラテン語については、 ・西洋古典語の世界ゼミ（ラテン語・全学教育機構・後期） ・古典語Ⅰ 及びⅡ（ギリシア語・人文学部・前期及び後期・各年開講） ・古典語ⅢⅠ 及びⅣ（ラテン語・人文学部・前期及び後期・各年開講） の授業の場で解説する。それぞれのシラバスを参照すること。